しかし、リンはくじけずに、町の有力者に寄附をたのんだり、保母の給料の一部を寄附してもらったりして、苦しい経営をつづけました。

そのころの保育のようすを、保母として働いていた人が、思い出としてこう書いています。

「そのころ、遊び道具などはほとんどなく、歌も、子どもの歌はあまりなかったので、『むすんで、ひらいて』をくりかえし歌っていました。」

「ボール紙に穴をあけて、色紙を通し、